

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392400075		
法人名	有限会社 ケアシステム・ピュア		
事業所名	グループホーム谷崎		
所在地	熊本県玉名郡南関町相谷1789		
自己評価作成日	平成24年12月19日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人がこれまでの生活により近い状態を保てるよう考慮し、家庭的な環境の下で、主に食事、排泄、入浴等で適切な介護を行います。同時に可能な限りの機能訓練を行い、その人の残存機能を十分に活かした生活を営むことが出来る様、お手伝いしております。また、小学校を目の前にして二城山をバックに、自然に囲まれた立地条件の中、木の温もり、そして環境にやさしいジオパワーを利用した体に負担のない、自然な中での生活を提供致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にデイサービスや有料老人ホームを営む法人の一つとして本年4月に開設したホームでは、地域に愛されるホーム作りへのまい進や、知名度を高める為の努力を惜まず、地域の一員として様々な活動に参加し啓発に努めている。デイサービス合同での行事や小学校が隣接する地域資源を生かしながら日々の生活に張り合いを持たせ、運営推進会議や家族会を問題提起の場として生かし、ホーム体制の確立に反映させている。職員はゆっくりとした中でどのように過ごしていただくか模索したり、個別ケアを注視しながら、明るいケア姿勢を持って傾聴や寄り添い、毎週のカンファレンスにより個々の状況を把握し、穏やかな日常を支援している。入居者同士や職員との関係も良好であることは訪問時の様子に表れており、今後も地域の中につながりながらの生活が継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である、グループホームを地域に開かれたものとし、利用者が、孤立することなく地域社会の一員として、生活出来るよう努力している。	理念作成にあたり、リーダー研修での資料をもとにまずは教育を行い、職員の思いを込めた理念を作り上げている。玄関へは大きく掲げることで啓発とし、申し送り場所へ掲示し意識付けとしている。また、理念の中での個々のフレーズを話し合い、日々の業務に反映させ、地域密着型事業所としての意義も十二分に認識し、地域に愛されるホーム作りに真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区員世帯として登録してもらい、地域の行事や奉仕作業等に参加している。	今年度開設したホームでは、知名度を高めようと開設時に地区会議への参加等による啓発に努めている。ゲートボール大会見学や登下校時の小学生と挨拶を交わしたり、花壇の花植えを一緒に行う等立地条件を巧みに取り入れている。職員は公民館掃除や空き缶拾い・草刈り、初日の出見学者の為の道づくりに参加する等地域の一員として活動している。	この一年地域の中での基盤作りへの取組みは大いに評価できる。今後も入居者が地域の中につながりながら生活できるよう、小学校との相互交流や地域への貢献も視野にした取組み、例えばAEDを設置していること等区の会議の中でアピールされること等検討していただきホームの持つ機能を地域への還元の一つにされることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、実践で積み上げた認知症の人の理解や支援方法など、分かりやすくアドバイス出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組み状況の報告、認知症についての勉強会、推進員の方の専門分野の講習などで、サービスの向上に努めている。	開設し5月より開催している運営推進会議は、入居者の現状報告や認知症や入居者の後見人である行政書士による後見制度講習、消防署員を招いた救急手当て(AED講習)等を組み入れ、意見交換を行っている。	参加者に意見等何でも話していただく様お願いされているが、現状としては意見はあまり見受けられない。ホームの課題等を具体的に提示したり、始めて行った自己・外部評価結果をもとにした話し合いにより、今後のホーム運営に反映されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分な連携を図り、協力関係を築いている。	運営推進会議参加や社協の依頼による民生委員施設研修見学の受け入れ、福祉祭り参加、包括支援センター主催の研修等に参加し質の向上に反映させている。社協からの在宅生活困難相談に応じ緊急受け入れを行う等協力関係を築いている。また、男女共同参画メンバーとして行政に関わり、有明地域医療連携ネットワークに加入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修などから身体拘束の知識を深め、職員は常に介助方法の話合いを持ちながら、身体拘束をしないケアを心掛けている。	身体拘束排除宣言を掲げ、ホーム内外での研修参加により拘束の弊害を正しく認識している。管理者は日々のケア、(例:ここに座ってください、テーブル・椅子の間が近すぎる)が拘束や強制につながり、拘束しないでよい方法を心がけることを指導している。外出傾向、徘徊もあり、本人が行きたいところと一緒に出かけている。また、車いすの使用についても、介助方法の工夫や余裕あるケアに取り組むことを全員が共有している。	玄関を開放し見守りの徹底により安全な生活を支援していきたいとしており、職員の手薄時間帯の対応について全員で再度検討されることや、運営推進会議委員や近隣住民の見守り支援及び声かけ協力を依頼すること等も検討いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、外部研修などから、高齢者虐待の知識を身に付け、虐待の無い介護に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修で権利擁護に関する制度の理解に努め、必要性のある利用者については、地域包括支援センターや、社会福祉協議会とも連携をとりながら、活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に、不明な点の残らないように、話し合い、十分な説明を行うことで、理解、納得していただけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族会の場での、意見や要望などは、運営に反映させるようにし、そのことは運営推進会議などでも報告するようになっている。	玄関先に「意見箱」の設置理由として「より良い施設づくりに活かすために遠慮なくお寄せください」とする意見用紙を設置し、日々入居者とのコミュニケーションに心がけ、寄添いのケアや傾聴により要望等の把握に努めている。家族には訪問時や電話で聞き取りしており、出された苦情に随時の対応と共に、家族への説明と、年2回開催する家族会の中で話し合いが持たれており、家族会が問題提起の場として生かされている。また、運営推進会議及び家族会の議事録を郵送し、家族との共有化が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、職員の体調や様子等を確認し、どのように働きたいか等を聞き取りしている。職員の気持ちをくみ取った勤務調整や寒い時期体調管理を徹底させている。開設時より職員とともに作り上げており、ベッド配置やテーブル配置等職員の気づきを反映させる等、入居者を中心として全員で考えながら基盤作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設けるなどし、各自が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、各自の力量を把握した上で、外部研修へ参加する機会を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会がないため、現場研修の場を提供し、他の事業所の職員との交流が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、本人、家族の困っていること、不安、要望等を十分に聞かせて頂き、安心していただけるような、サービスの提供を行うことで、良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き、不安を解消出来るサービスを提供することによって、安心して頂けるような、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難なことが発生した時には、本人、家族の理解を得た上で他のサービスの利用を含めた対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行うことで暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで本人を支えるのではなく、家族にも出来るだけ協力して頂き、共に本人を支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で利用していたデイサービスに時折出向き、音楽会、各種行事に参加して、友達との交流して頂くよう努めている。	家族や親類の訪問、かかりつけ医の継続、また、系列デイサービス利用者との交流では「久しぶりに会ったね」等の声も聞かれるなど馴染みの関係となっている。また、豆まき等慣習等も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり、支え合える関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了で本人が亡くなり終了になることが多く、偶然の出会いでは、近況を伺うような挨拶程度になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望の理解に努め、出来る限り本人本位の暮らしが出来るように検討している。	入居者との会話により、「栗が落ちているから帰らないと」や、「自宅が心配」等思いを引き出し、家族に依頼したり、“本人がどうしたいのか”や、いつもとの違い等気付きや観察力・判断力を持ってケアに当たることを全員が認識しながら、毎週のカンファレンスの中で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から、聞き取りを行い、家族やケアマネージャーからの情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分な情報収集の上で、計画に反映させ、日々の暮らしの中から、有する能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるために、必要な関係者と話し合い、意見等を反映した介護計画の作成を行っている。	介護計画担当者はデイサービスでのプランを参考に、本人を知る期間を設け徐々に変更し、半年毎に見直すこととしている。家族からの意見や提案を記録し、各目標毎のモニタリングにより再作成している。家族には家族会の中での全体的なプランの説明と、個別に説明し同意を得ている。	日々のケアの中で、個別の心身の状況や問題点等の話し合いが行われており、今後、全職員で定期のケアカンファレンスを行い、職員の観察や気づきをプランに反映されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや、計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ併設されているデイサービスセンターに参加していただき、その時々生じるニーズに合わせ、職員が柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、ボランティアで来所してもらったりして、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。	入居者がこれまで慣れ親しんだかかりつけ医を継続し、入居者全員が其々の主治医からの定期往診を受け、状態変化時は家族や主治医と連携を取り合い往診や受診で対応している。看護職との協働で健康状態の把握に努めており、バイタルチェックのみならず様子観察力で異常の早期発見や適切な受診に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の心身の状態や情報、気づきを看護師に伝え指示を受けながら、利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療が受けられ、早期退院出来るように、医師や病院関係者との情報交換や相談に努め、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階では、入所時にある程度の方向性を話し合い、必要な段階には、家族を含め、主治医、看護師と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組んでいる。	ホームでの生活が少しでも長く続けられる様に、希望に応じ医療との連携体制の確立を図り看取り支援に取り組んでいく意向である事を家族に説明している。有明地域の地域医療連携ネットワークに登録し、ホームの空き状況や対応可能状況の情報提供を行っており、運営推進会議の中で消防署の緊急救命の実習を受けAEDを設置している。	重度化時や看取り支援についての方針の作成や明文化が望まれ、介護のみならず看護に対するケア力の強化や家族・職員のメンタル面にも配慮した研修の充実が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低年二回の訓練を受け、緊急対応の研修等にも参加し、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年二回の避難訓練を行い、利用者の安全な避難方法を確認したり、災害時の協力は、自治会長にもお願いしているが、消防署との協力体制も築いている。	消防署立会での火災避難訓練や自主訓練を実施している。自動通報装置の接地や先ずは火を出さない事を意識付けている。又、地域の土砂災害訓練に参加し、地区防災組織の協力を得て入居者を系列ディサービスまでの避難を体験する等地域と協力しながらの訓練が実施されている。	今後も地域住民との協力体制について話し合いを進め、自然災害に対策としての備蓄についても検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮し、職員の不適切な対応が見られた場合には、管理者がその都度注意をしている。	名字を基本として名前で呼んだり一人ひとりに合わせた呼称や、排泄失敗時のさりげない言葉かけ等誇りを損ねない対応に努めている。管理者は馴れ合いの言葉遣い等に注意することや入居者の尊厳を守ることを指導し、個人情報保護方針を掲示し研修により共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定に結び付け、意思を表せない利用者は、表情やしぐさなどから思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の危険回避、衛生面を考えて職員側の都合に合わせて頂くことはあるが、利用者が望むペースに合わせて一日を過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように、ご家族にご協力頂いたり、その人の力に応じて支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞きながらメニュー作りをしたり、その人の力に応じて出来ることをして頂いている。見守りの中で、テーブル拭きや食器拭きをして頂いている。	入居者の嗜好調査を献立に活かしながら、旬の食材を提供し、入居者はテーブルやお盆拭き等できる事を行い、職員も一緒に嚙下の様子を見ながらの介助や見守りで食の進み具合を確認し、会話等による楽しい食事としている。季節に合わせた行事食や訪問当日も節分の恵方巻き等を取り入れている。	入居者が出来ることは少なくなってきたとのことであるが、出来ないとあきらめず、出来ることが何かないか全員で検討したり、食に関われることを引き出していただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り、一人ひとりの食事、水分量を把握出来るようにしている。その人の状態に合わせて食事の形態やメニューを変更し、おやつ時間をとって定期的な水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	半年に一度の歯科衛生士の指導の基、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの支援を毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ排泄はトイレで自立して行えるように、声掛けや介助により利用者の残存機能を活用して頂くよう努めている。また、排泄パターン等を把握しトイレへの声掛け誘導を行っている。	自らトイレに行かれる方や声かけ・誘導等、一人ひとりに合わせ、職員はドアの外から声を掛けたり出来ない部分を手伝う等プライバシーに配慮している。排泄用品の種類を検討したり、区切りの時間や様子を見た誘導で失敗を減らし排泄用品の減量や自立に向けた支援に取り組んでおり、経済的負担軽減に向け家族会で話し合い、一括購入することを決めている。夜間使用されたポータブルは屋間は居室から出し、日光消毒を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因や及ぼす影響を理解し、ヨーグルトや食物繊維の多く含まれている食材を活用、体操など行い便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は、ほぼ決まっているが、その時の衛生面、御本人の体調やタイミングに合わせて出来るだけ不快にならないように行っている。	毎日入浴できるように用意し、冬場は一日3名位を目途に、入浴前にバイタルチェックにより入浴可否を見極め支援している。個浴で職員と会話しながらのゆっくりとした入浴は、特別な拒否もなく気持ちよい支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースのソファで自由に休息を取って頂き、夜間は、居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬についてほぼ理解しており、その人の力に応じた服薬支援を行い、症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように、掃除や洗濯物たたみ等のその人の力に応じた役割を担ってもらったり、個々の希望に沿った気分転換等にも対応出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭を使ったり等して、近辺の散歩の声掛けを行い、車椅子を使用して身体に負担がかからないように支援している。また、できる限り本人の希望に沿った外出の支援になるよう、御家族の協力を得て自宅への帰宅やお出掛けを行って頂いたりしている。	小学校のプールや運動場が望まれるホームのウッドデッキにはベンチが置かれ外気浴をしたり、ディサービスでの行事に徒歩や車椅子で出かけている。買い物や足湯にドライブを兼ねて外出し、自宅の心配をされる入居者に帰宅や外出・外食等を家族の協力を得て支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は管理が困難である。お一人だけ少額の現金を安心される為に持って頂いている。買い物、御本人のお意思にて使われることを見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は無いが、家族への電話を希望されるときは、お手伝いして話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みある音楽を流し、大きな窓から見える小学校の子供達の風景や南関町の四季折々の山や畑といった自然を見て頂いている。空調、湿度に配慮し、出来る限り自然体で過ごして頂いている。	新築のホームはバリアフリーが行届き、中庭を囲む回廊式の廊下やリビングの高い天井等開放感のある造りとなっている。中庭や庭先に植えられた季節毎の花や、ホーム内には観葉植物等が置かれ、行事の写真が掲示されている。入居者の状態に合わせたテーブル配置を行い、温湿度管理や小まめな清掃で快適な共用空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを置き、自由に過ごして頂ける場を設け、テーブル席は身体的なことも含め、なるべくその人の居心地のよい場所になるように日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の好みを知るご家族と相談しながら、第一に安全を考えて自由に使って頂いている。	使い慣れた馴染みの品物の必要性を入居時に説明し、家族の協力でタンスや家族写真・ぬいぐるみ等が持ち込まれている。季節の変わり目には家族や職員と衣替えを行い、本人が居心地良く過ごせる様に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように工夫している。		